RERF Update 2015年第26巻2号（冬季号）より抜粋。本号は次のURLからアクセスできます。

http://www.rerf.or.jp/library/update/pdf/2015vol26_2J.pdf

「2015 年JRR 賞」を受賞して

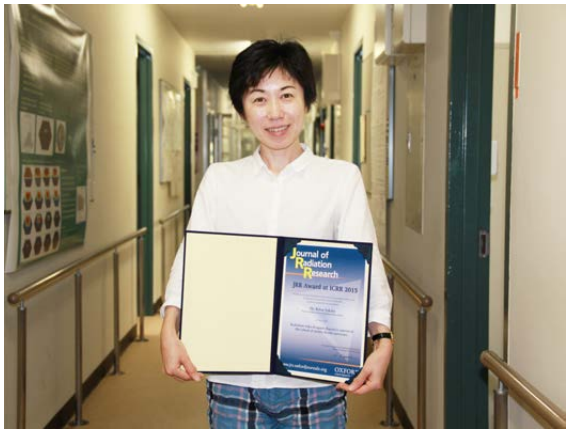
広島疫学部 副主任研究員　坂田 律

2015 年 5 月 25 － 29 日に京都で開催された第 15 回国際放射線研究会議［ICRR 2015］（15th International Congress of Radiation Research）における発表「原爆被爆者のコホートにおける上部消化管がんの放射線リスク（Radiation risks of upper digestive cancers in the cohort of atomic-bomb survivors）」に対し、「2015 年 JRR 賞」（Journal of Radiation Research Award at ICRR 2015）を頂きました。

このたびの発表は、米国国立がん研究所（NCI）と共同で進めている 2009 年までのがん罹患データを使った研究シリーズのひとつで、上部消化管がん（口腔がん、食道がん、胃がん）への放射線被曝の影響についての解析結果を示したものです。

現在進行中のがん罹患率研究シリーズの特徴のひとつは、郵便調査などで得た生活習慣情報を利用して喫煙や飲酒といった放射線以外のがんに関連する因子について調整を行うことです。口腔がんや食道がんは、喫煙や飲酒との関連が強いがんとして知られています。胃がんについては喫煙や飲酒との関連について一致した結果は得られていませんが、関連を示した報告も多く、また、胃がんは放影研の寿命調査集団で観察されるがんの約 25％を占める最も多いがんで、線量反応関係や影響修飾因子などについての詳細な解析が可能であり、興味深い部位です。

いずれのがんでも喫煙や飲酒との関連は見られたものの、放射線影響との交絡は見られなかったこと、食道がんについては、影響修飾因子として到達年齢、被爆時年齢を入れたモデルより、被爆後経過時間を入れたモデルの方が当てはまりが良かったことなどを発表しました。この発表の後、更に解析を進め、現在論文を作成中です。



「2015 年 JRR 賞」を手にする坂田　律疫学部副主任研究員

このたびの受賞は、放影研の放射線影響に関する疫学研究が評価されたものであり、これまでご指導いただいた諸先輩方、様々なアドバイスをしてくれた同僚の研究員、ならびに NCI の共同研究者の方々のおかげと思っております。今後とも皆さまの変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。